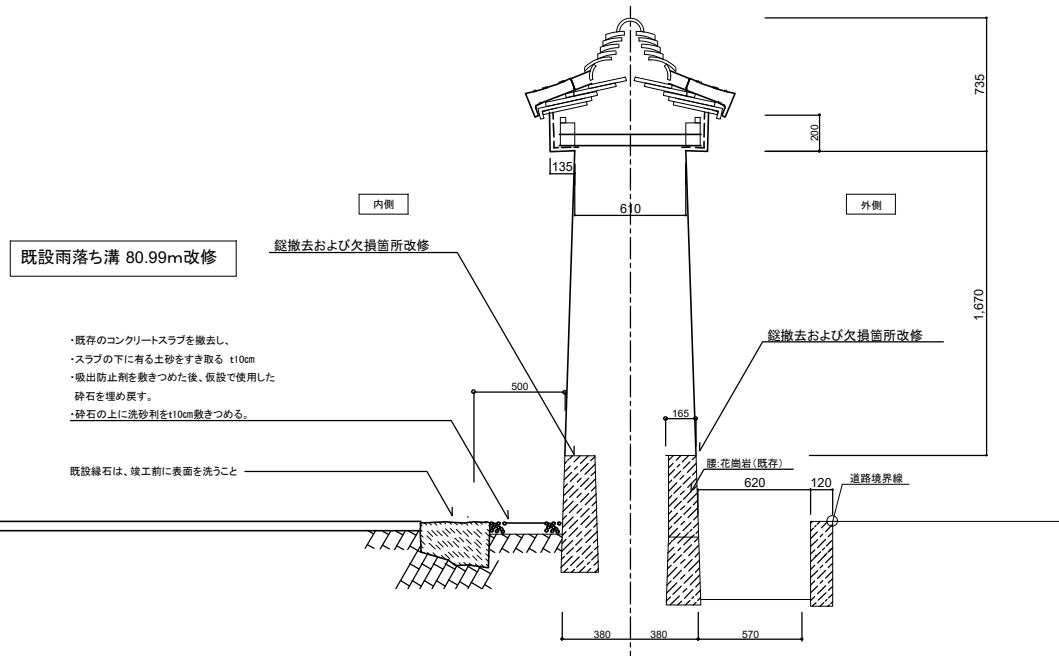


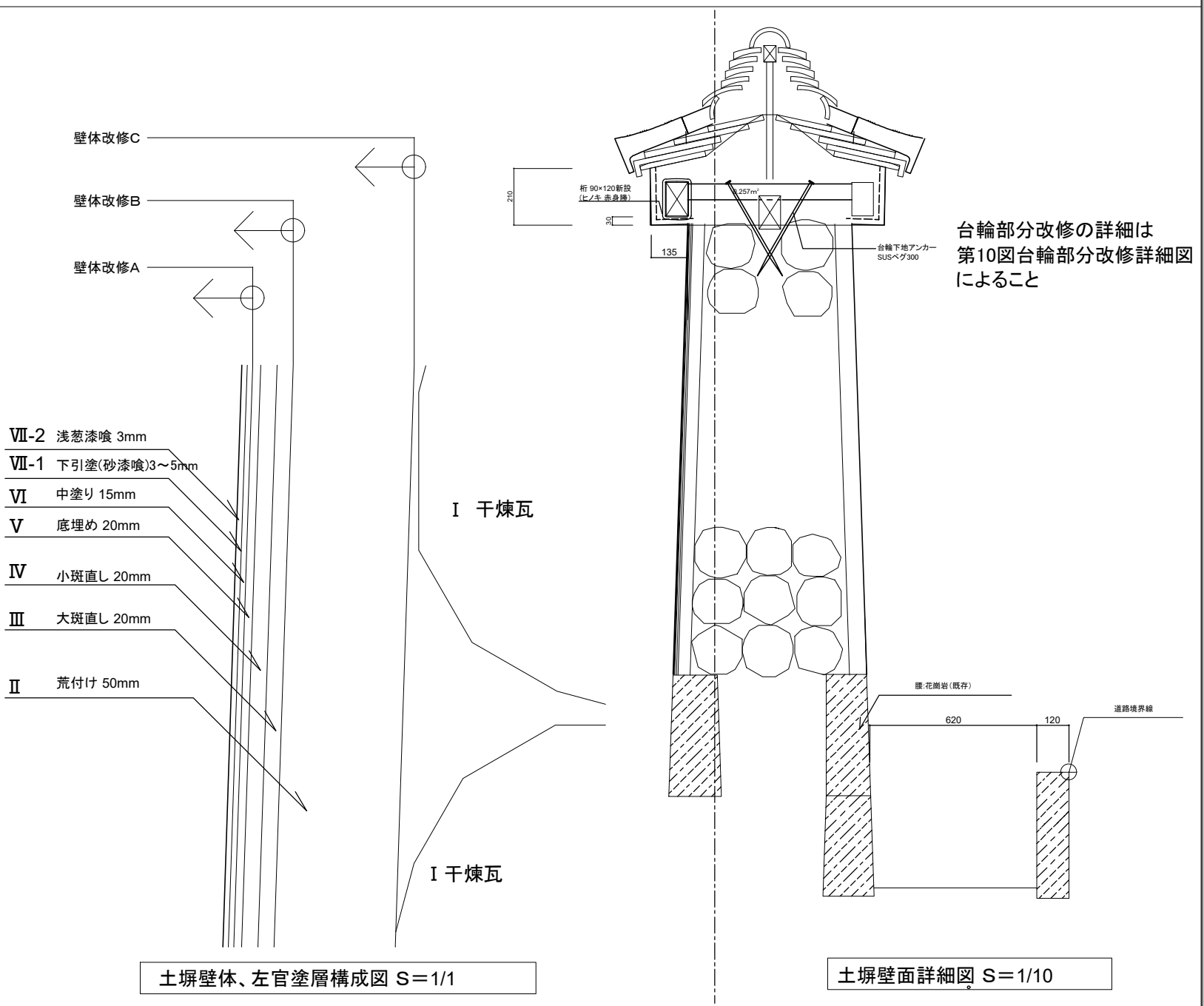
工事箇所を特定しやすくするため、現地土塀に沿って5mおきに木杭を設置しており番号を付している。本図ではそれを表示している。



■ 土塀壁面改修種別ごとの左官工事数量一覧表 区画1~18の一部(区画は立面図参照のこと)

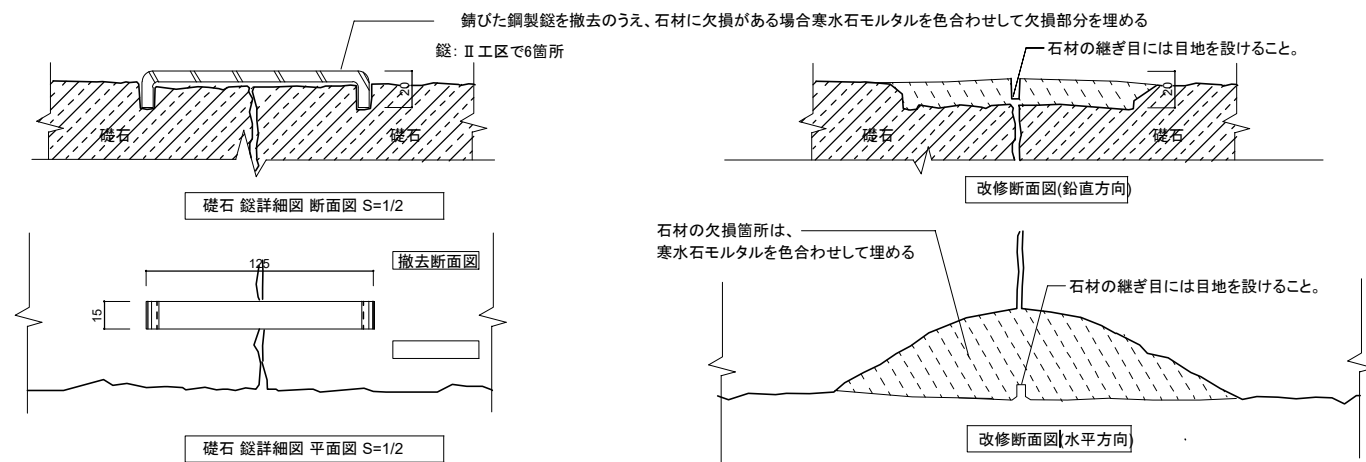
改修種別	種別	作業の順序と内容	I 工区		II 工区	
			土塀5外側	土塀5内側	土塀5外側	土塀5内側
壁体数量 単位:m	壁体改修 A 表層部の劣化改修	撤去	90.16	60.11	45.09	26.93
		改修	90.16	60.11	45.09	26.93
	壁体改修 B 下層からの劣化改修	撤去	-	17.26	-	8.77
		改修	-	17.26	-	8.77
	壁体改修 C 壁体からの劣化改修	撤去	-	12.79	-	9.39
		改修	-	12.79	-	9.39
台輪数量 単位:m	台輪改修 A 左官工事改修	表層撤去 中塗までこそげ落とし 小舞、麻メッシュ等補強 中塗以降浅葱漆喰塗	53.99	53.99	-	-
	台輪改修 B 瓦葺き改修を含む	(瓦及び葺土撤去=別途工事) 台輪下地骨組みの撤去 (心木を含む木下地組み新設=別途工事) 左官下地竹木舞打ち付け (瓦葺き仕上げ=別途工事)後、荒壁・中塗り新設 砂漆喰塗りの上浅葱漆喰塗	-	-	27.00	27.00
錠 撤去・撤去跡補修 単位:箇所						6.0

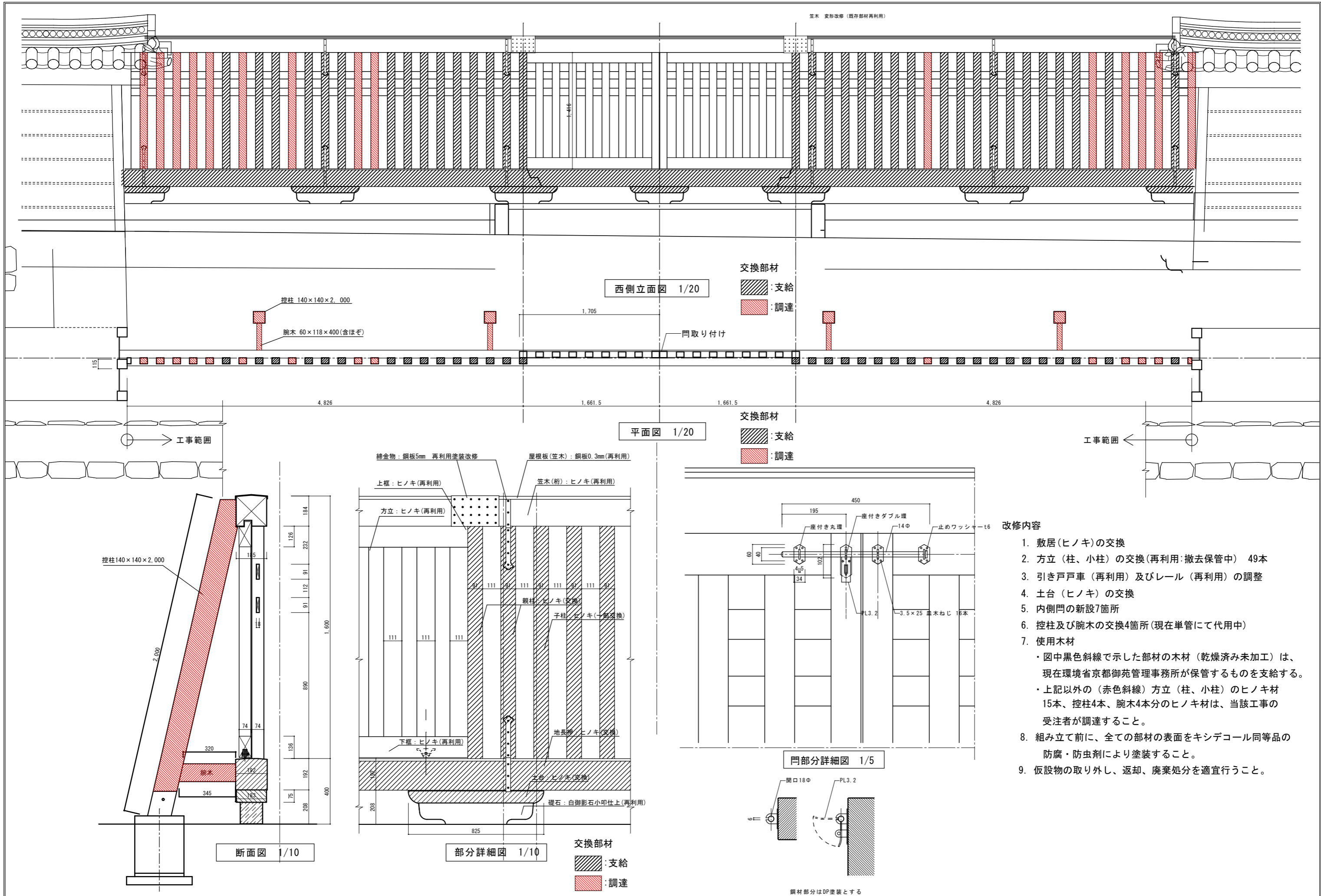
- 漆喰塗の手順
1. 下塗土の斑直しをおこない平滑に仕上げる。
 2. 中塗15mm程度を平滑に施工し、その乾燥状況を確認する。
 3. 砂漆喰を厚さ3~5mmで鍍塗りし、間を置かず、仕上の浅葱漆喰を鍍塗りして仕上げる。砂漆喰を含む漆喰塗り厚は6mm程度を標準とする。
 4. 白漆喰で定規筋5本を鍍塗りして仕上げる。



土塀壁体、左官塗層構成図 S=1/1

土塀壁面詳細図 S=1/10





笠木 変形改修 (既存部材再利用)

西側立面図 1/20

交換部材
 〰️ : 支給
 〰️ : 調達

平面図 1/20

交換部材
 〰️ : 支給
 〰️ : 調達

断面図 1/10

部分詳細図 1/10

交換部材
 〰️ : 支給
 〰️ : 調達

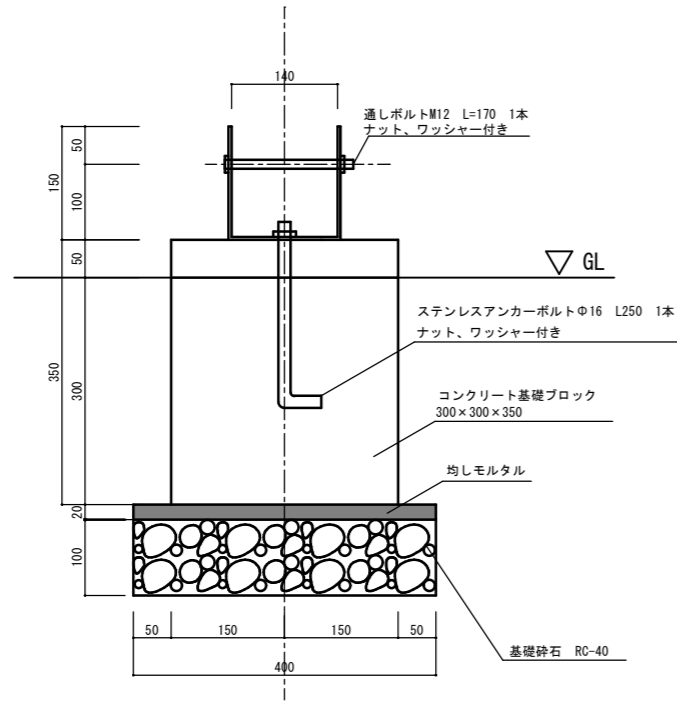
門部分詳細図 1/5

改修内容

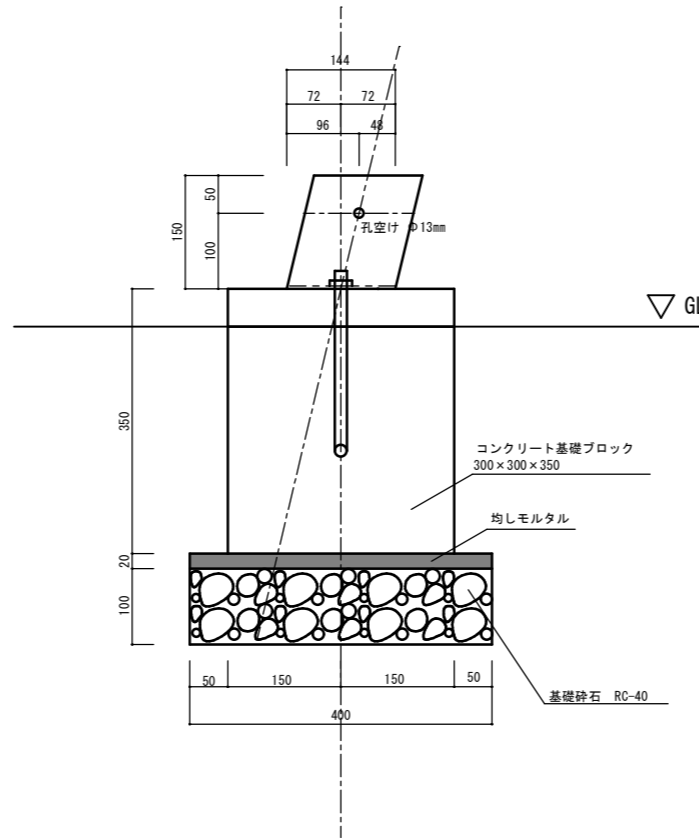
- 敷居(ヒノキ)の交換
- 方立(柱、小柱)の交換(再利用:撤去保管中) 49本
- 引き戸車(再利用)及びレール(再利用)の調整
- 土台(ヒノキ)の交換
- 内側門の新設7箇所
- 控柱及び腕木の交換4箇所(現在単管にて代用中)
- 使用木材
 - ・ 図中黒色斜線で示した部材の木材(乾燥済み未加工)は、現在環境省京都御苑管理事務所が保管するものを支給する。
 - ・ 上記以外の(赤色斜線)方立(柱、小柱)のヒノキ材15本、控柱4本、腕木4本分のヒノキ材は、当該工事の受注者が調達すること。
- 組み立て前に、全ての部材の表面をキシデコール同等品の防腐・防虫剤により塗装すること。
- 仮設物の取り外し、返却、廃棄処分を適宜行うこと。

鋼材部分はDP塗装とする

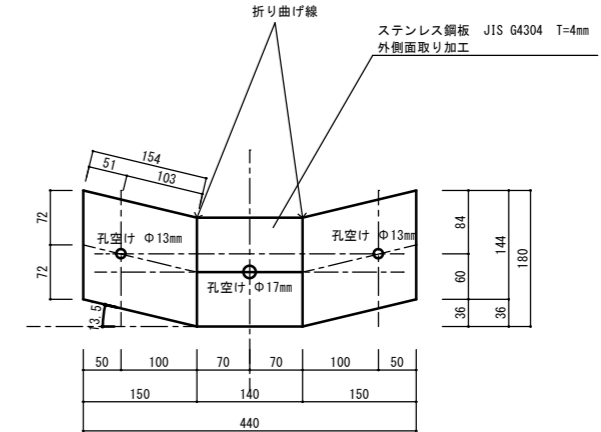
控柱受枠 正面図



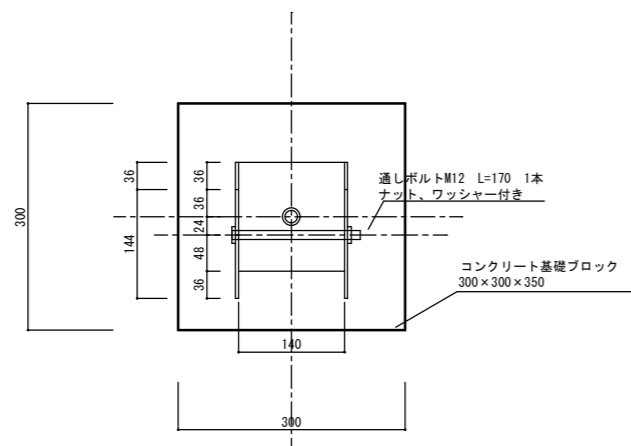
控柱受枠 側面図



控柱受枠 展開図

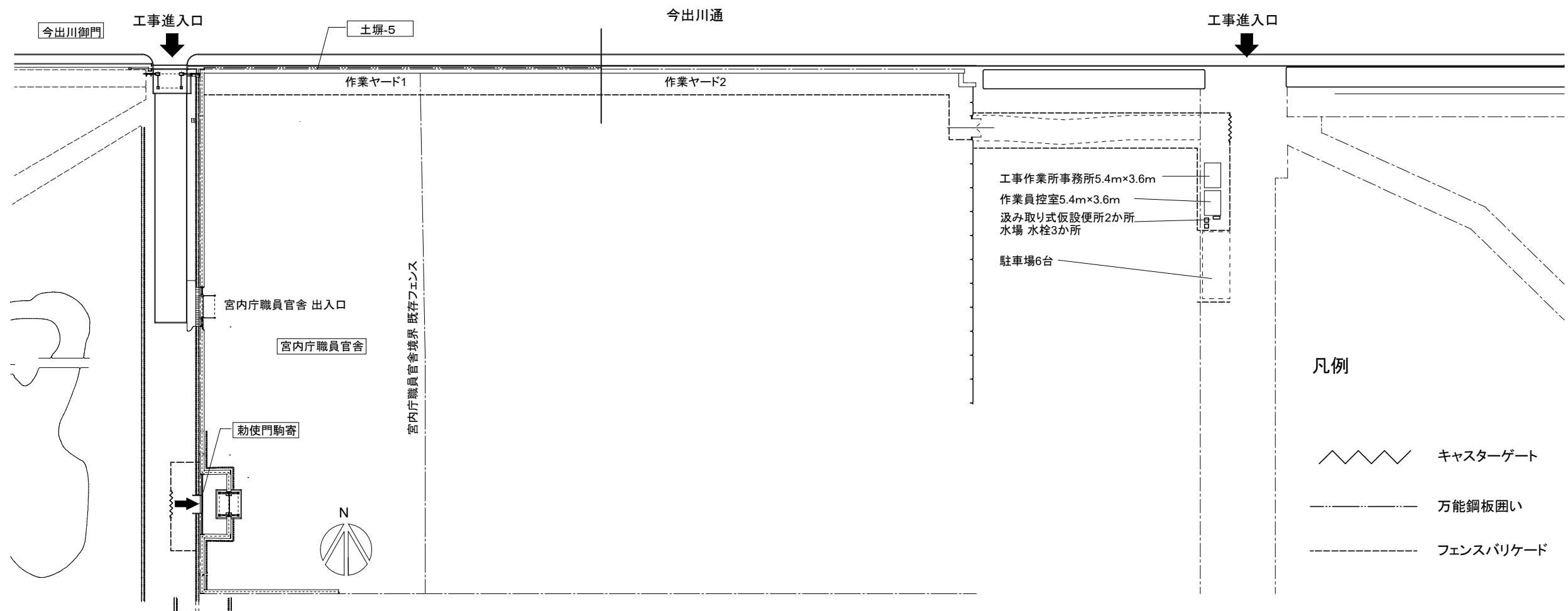


控柱受枠 平面図

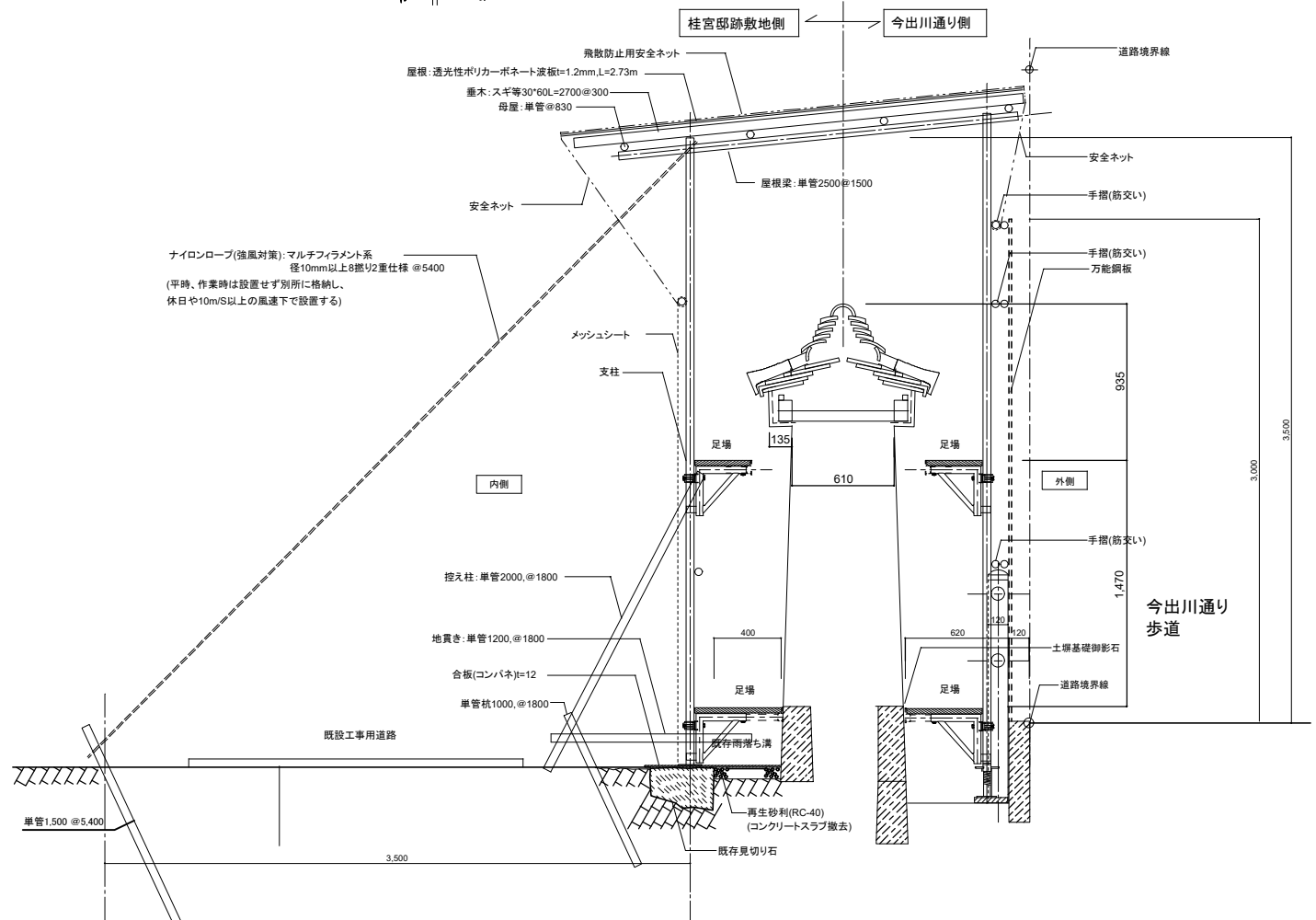


特記事項

- 控柱は、市販の基礎コンクリートブロック（300×300×350）に、受枠（ステンレス鋼板：JIS G4304 4mmを図示の通り加工する）をステンレスアンカー（φ16mm L250mm）で固定して、所定の位置にステンレス通しボルト（M12:170mm）、ワッシャー、ナットにより固定すること。
- 基礎の天端は地盤面より5cm上とすること。
- ステンレスアンカーは、無収縮モルタルにて基礎天端からネジ切り部分が20mm出るように埋め込むこと。
- ステンレス鋼板は、控柱を固定する前にエポキシ系樹脂塗料（艶消し、黒色）にて塗装すること。
- 同様に控柱を固定後、通しボルト、ワッシャー、ナット（各表面）をエポキシ系樹脂塗料（艶消し、黒色）にて塗装すること。



仮囲い 仮設事務所等 配置図 1/500



特記事項 土塀-5仮囲いの設置については下記に配慮して行うこと

- 土塀の改修に必要な仮設足場は、土塀の南北にクサビ緊結式足場を設置し、土塀の上部を透光性のある屋根で覆った構造を想定している。
- 北側今出川通り沿いの足場は、市道の歩道との境界線(側溝緑石の歩道側)を越えて設置しないこと。
既存の手摺りは、工事中も取り外さないことを想定している。事前に損傷や老朽化等現況を確認・記録すること。
安全鋼板と足場は、手摺りを鋼板と足場の支柱等で挟んで設置するが、手摺りへの過大な加重や負荷を避け、干渉の少ない固定とすること。
- 図は、土塀の瓦屋根改修部分の想定を示しているため、屋根の高さは、作業内容に応じて適宜調整すること。
屋根は、南(桂宮邸跡)側に向けて5%以上の勾配をつける(南を下げる)こと。
- 土塀を挟んだ前後(南北)の連結が困難なことから、それぞれの根固め、屋根の緊結を十分に行うこと。
- 今出川通り側安全鋼板の上端より南側の土塀の上端までを飛散防止のため安全ネットで覆い、端末を固定すること。
- 土塀南側の土塀上端より下は、メッシュシートで覆うこと。
控え材、コロボシ単管・杭は、作業性を考慮しつつも、十分な幅、根入れを確保し支柱の安定を確保すること。
- 台風等強風時には、構造上不安定となることが予想されることから、事前に調査職員と協議して、
ロープ固定用のアンカー杭打設や立木の根元へのこも巻き等の養生等固定箇所を準備しておくこと。
強風の発生時には、ロープの緊結、メッシュシートの開放等、対策を早め実施するとともに、
休工中も巡回して状況を確認し、安全対策に万全を期すこと。